

平成 3 0 年西日本豪雨災害から 5 年 住民主体の地域防災



1.自己紹介・『あるく』ができるまで



槇原聡美（まきはらさとみ）

総社市出身。

川辺復興プロジェクトあるく代表。（2018年10月発足）

川辺地区まちづくり推進協議会防災部長。（2010年～）

保育士・防災士。

現在、高校1年生と高校3年生の子どもと夫+ワンコの4人と1匹家族。



災害の4ヶ月前


平成30年西日本豪雨災害にて、自宅の2階床上10cmまで浸水。自宅の再建をしながら、地域の支援活動を始め、川辺復興プロジェクトあるくを結成。


バラバラになった住民のつながりの結い直しや真備町に帰ってきた人が安心して暮らすことができるように地域防災に力をいれている。

防災講演は130回を超え、代表的な番組としてNHK「明日をまもるナビ」「あさイチ」「NHKスペシャル」など、テレビやラジオにも多数出演し、自身の経験をもとにイメージしやすく分かりやすい防災を発信している。


平成30年西日本豪雨における真備町川辺地区の状況



 ・川辺地区（約1700世帯）のほぼすべての家屋が全半壊。

 ・真備町内の災害死者数51名（関連死を除く）。そのうち6名が川辺地区住民。

 ・川辺地区には洪水時の公的避難所がない。

 ・小学校や真備公民館川辺分館も被災。物資や支援・情報が届きにくい。

 ・ほぼすべての住民が、川辺地区から離れることになり、コミュニティーが崩壊。

高梁川

小田川

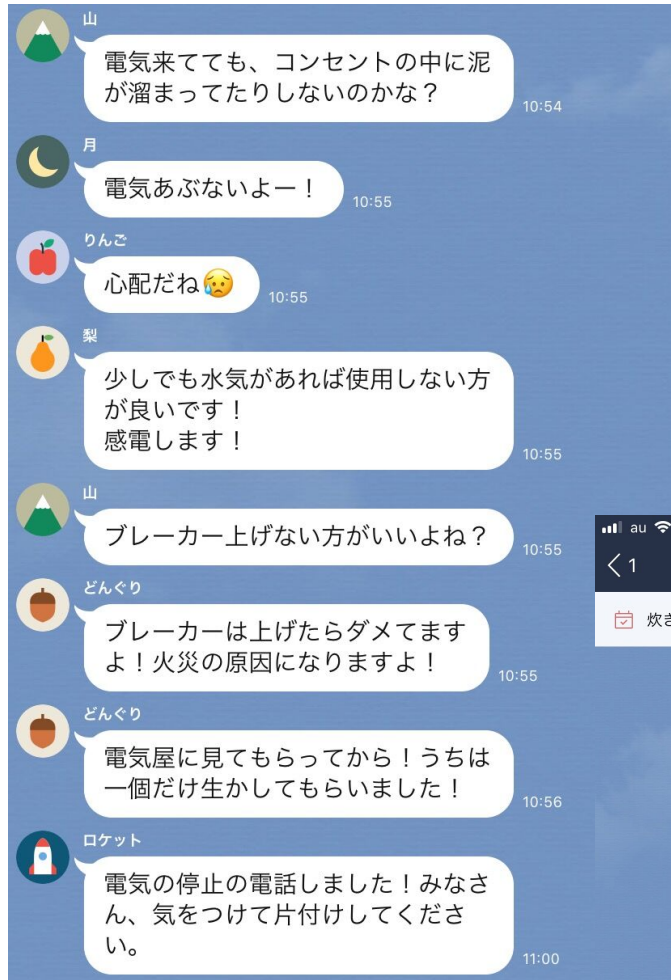
末政川



LINEグループ「川辺地区みんなの会」 2018年7月9日作成

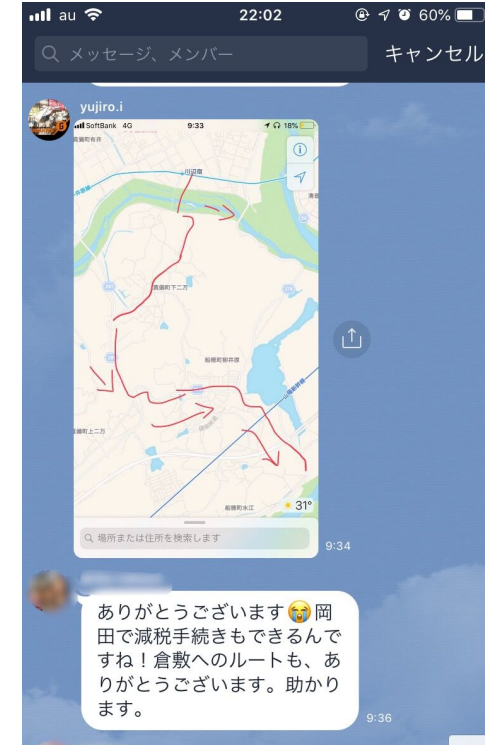


2018年8月末 200名
2019年1月末 556名
2020年9月末 約600名



発災後のやり取り

電気の復旧・床下の乾燥の仕方・ごみの捨て方・
支援物資や炊き出し・仮設トイレの設置場所・支所の再開・
罹災証明の発行手続き・仮設住宅情報・道路の渋滞情報・
受けられる支援情報・NHKやガス、固定電話などの手続き・
安否確認・お店や病院の再開・学校の再開・子供の預け先 など



2018年8月末スタート



炊き出しが
大切な交流の場に



心の栄養・生き抜く力



被災後の地域課題を軽減するための団体発足



女性メンバー 16名
男性メンバー 5名

合計 21名

2024年2月現在



発災後、3か月で発足。被災した住民が中心となって活動。
メンバーは30代～60代の女性。男性や高校1年生もいる。



地区の99%が浸水。災害後の地域課題を軽減するために、炊き出しや支援物資の受け入れと提供・サロンの開催などから始め、ボランティアと被災住民の架け橋的存在となる。



- ・住民のふれあいやつながり、生きがいつくりに関する事業
- ・安心なまちづくりに関する事業（地域防災）
- ・西日本豪雨災害の風化防止に関する事業





災害後の課題の軽減
安心して集まることのできる場
つながり、生きがづくり



「川辺復興プロジェクトあるくの活動」への思い

帰りたくなる川辺
帰ってよかったと思える川辺



安心して暮らすことができる、
逃げ遅れゼロの川辺地区



地域力 = 防災力

もう2度と、災害で命
を落としたり、怖い
思いをしたりする人
がいないように！

2. 地域防災の取り組み

多様な目線を大切に

様々な主体との連携

自分の地域の未来を考える

川辺みらいミーティング

防災意識の見える化で地域力UP!

黄色いタスキ大作戦

様々な団体と協働して

目指そう! 逃げ遅れゼロの川辺地区

川辺地区の地域防災

災害支援団体 (NPOなど)

- ・特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
- ・一般社団法人epoおかやま笑顔プロジェクト

川辺 地域団体

- ・愛育委員会
 - ・栄養改善協議会
 - ・環境衛生協議会
 - ・小学校PTA
 - ・小地域ケア会議
 - ・消防団
 - ・地区社会福祉協議会
 - ・分館管理組合
 - ・民生児童委員
 - ・幼稚園PTA
 - ・老人クラブ
- (五十音順)

協力

- ・香川大学 磯打研究室
- ・がくまび

川辺地区
まちづくり
推進協議会

川辺復興
プロジェクト
あるく

川辺みらい
ミーティング
実行委員会

真備地域の医療・福祉事業所

- ・高齢者支援センター
 - ・社会福祉協議会
 - ・地域生活支援センター
 - ・保険推進室
 - ・真備地区関係機関・事業所等連絡会
(町内の医療・福祉関係事業所の会)
- (五十音順)

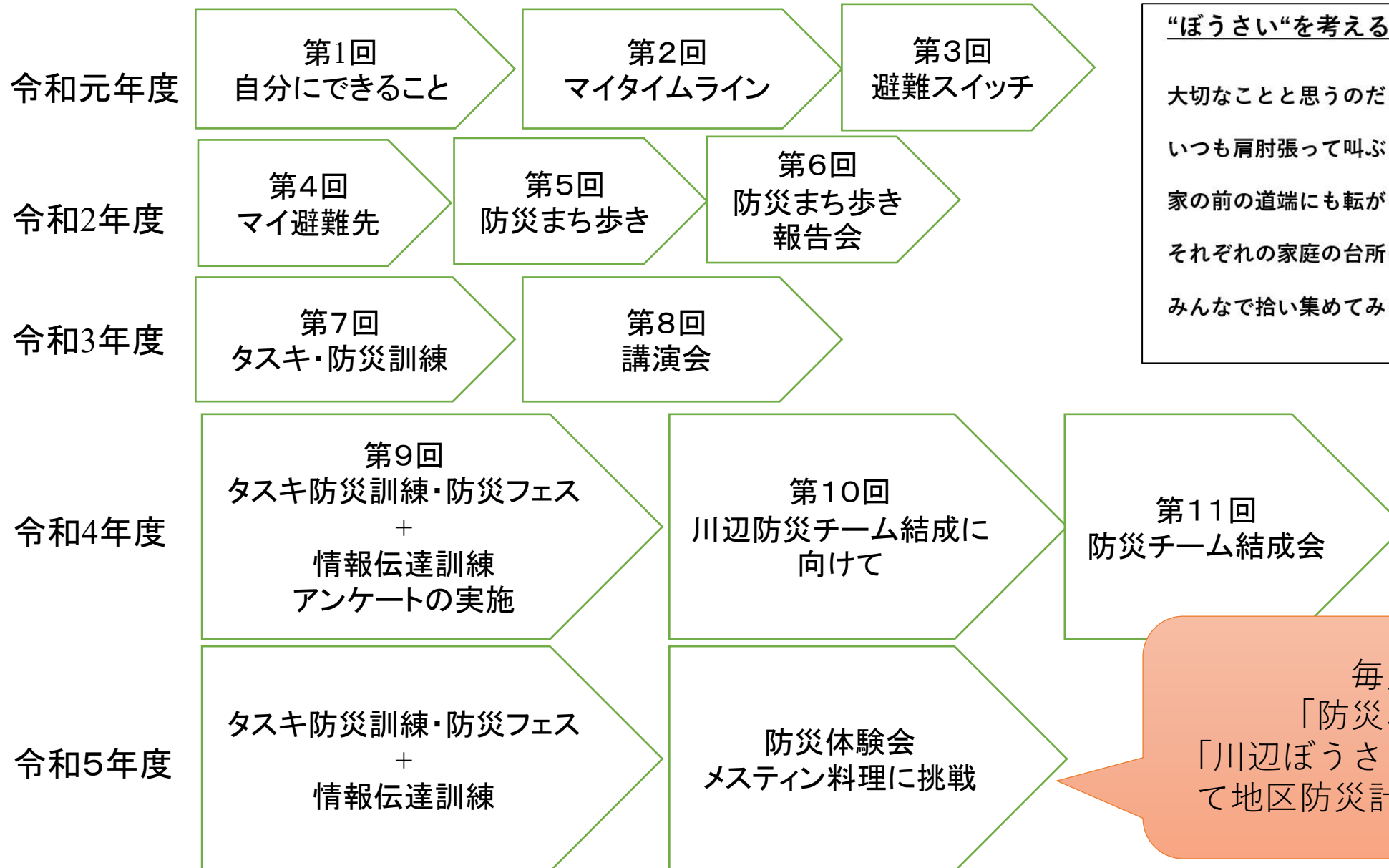
公共機関

- ・国土交通省/高梁川・小田川
緊急治水対策河川事務所
- ・倉敷市
- ・社会福祉協議会

地域の企業

川辺みらいミーティング

地域みんなで 考える 学ぶ



“ぼうさい”を考えるとって？

大切なことと思うのだけど、
いつも肩肘張って叫ぶということじゃなくて
家の前の道端にも転がっているような
それぞれの家庭の台所にも転がっているようなものなのかな。
みんなで拾い集めてみませんか？



毎月1回ずつ
「防災おしゃべり会」
「川辺ぼうさいチーム定例会」をして
地区防災計画を作っています！

亡くなった方の状況

真備町内の死者数51人（災害関連死を除く）



死亡した場所

住居	2階建て	2階	1人
		1階	22人
	1階建て	1階	19人
屋外	屋外		7人
	住宅流失		2人

2階建ての家でも、
1階部分で多くの方が亡くなっている。

避難行動

避難できなかった	2階建て住居	要支援者など	19人
		健常者	2人
	1階建て住居	要支援者など	11人
		健常者	5人
	救助・呼びかけ活動中		2人
避難した	避難後住居に戻った		6人
	垂直避難をした		2人
	避難所へ向かう途中		4人

2階建ての1階で亡くなった方の多くが、
要支援者である。

声掛けって意外と難しい！？から生まれた黄色いタスキ大作戦

2021年6月～毎年、出水期を前に、タスキを活用した安否確認訓練と体験型防災フェスを開催。

黄色いタスキは、メディアにも取り上げられ、県内外の地域で取り入れられている。



平成30年7月西日本豪雨の際に、「お隣さんが無事なのか心配だった。」「避難したかどうかかわからず、声掛けに時間がかかった。」などの声をたくさん聞きました。そこで、「我が家は、避難しました！無事です！」と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

川辺地区の『黄色いタスキ』ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常持ち出しバッグに結んで保管。
3. ドアノブがある場合はドアノブに、ない場合は、玄関付近の目立つところに結びつける。

※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ
※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ

結びやすく、目立つ色。
ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ！

緊急時タスキが玄関先にお宅に声掛けをしましょう。

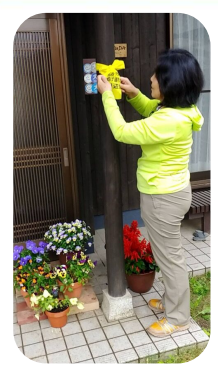
黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら速く「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、ご近所同士で声掛けをしましょう。

川辺地区の住民みんなで取り組もう！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひ参加ください。

※お近くの無償貸出所・準備所は、川辺地区復興プロジェクト事務局（川辺地区復興センター）に問い合わせてください。

主催：香川大学 橋打千穂子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111



黄色いタスキの役割

● 防災意識の見える化

黄色いタスキを取り入れてみて、様々なメリットがあったと感じています。訓練をすると6割を超える家庭がタスキを玄関先に結び付けてくれました。いざという時に声掛けをすることで、避難をすることを皆さんが意識していることが目で見て感じ取れます。

● 子どもから大人まで

小学校などにお邪魔して、黄色いタスキの話をとお話するなど、子どもたちへのアプローチも大切にしました。そのことで、家庭で防災について話し合うきっかけになったようです。分かりやすいシンプルなルールは、誰ひとり取り残さない防災への第一歩です。

● 話題作りのツールとして

黄色いタスキや訓練があることによって、町内会などご近所さん同士での会話も生まれました。「今日は訓練の日ね～」とか、「あなたが避難する時には、声かけてね。私も声かけるわ。」など、自然と話げができました。

● 大雨への不安軽減

出水期が近づいてくると私たちはあの日を思い出し、大雨に対して敏感になります。その不安をちょっとだけ軽くしてくれるのが黄色いタスキです。地区のみんなが同じものを持っていることが、気持ちもつながっているようで心強いと話してくれたのは、独居の高齢女性でした。

● 目指すところ

黄色いタスキを使った訓練は、「目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区」のスローガンのもと、今後も継続していきます。訓練の中で見つかる課題は、とても大切なみなさんの声です。その課題を解決していくことこそ、地域の団結力と逃げ遅れゼロに向けた仕組みづくりに繋がると考えています。

もしまもの時に
すぐ結べる？

無事です 目指そう！ 逃げ遅れゼロの川辺地区

平時は玄関などの目につく場所や非常持ち出しバッグに結んで保管してきましょう。

目指そう！声掛けの準備
「無事です」のサインを
「避難しました」のサインを
「無事です」のサインを
「避難しました」のサインを

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら速く「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、ご近所同士で声掛けをしましょう！

黄色いタスキが玄関先にお宅に声掛けをしましょう！

080-5752-0111

黄色いタスキ安否確認訓練&防災フェス

体験ブース



地域・行政・NPO・
企業・福祉・大学など
**多様な団体との
協働**開催が実現

黄色いタスキ訓練結果報告



地震について 香川大学の金田先生から教わろう



2. キッズ防災講座（一部のみ紹介）

もっと学びたいを応援

くらしきジュニア防災リーダー養成講座

地域で育てる防災の芽

まなぼうさい

地域だからできる防災教育

川辺小学校 災害後や防災の取組講演

くらしきジュニア防災リーダー養成講座（3日間） 市内小学5年生対象（2021年～）



POINT!

楽しく学ぶ・体験する・自分の命を守るための知恵を身に付ける。

POINT!

自分にできることを具体的に考え、行動しようとする気持ちを育てる。

POINT!

子どもたち・保護者・講師・学生みんなで学び合う場。

POINT!

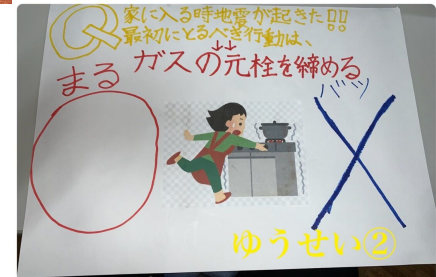
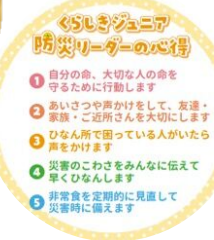
倉敷市教育委員会、倉敷市の後援により、学校との連絡がスムーズになり、**地域での学びを学校につなげている。**

POINT!

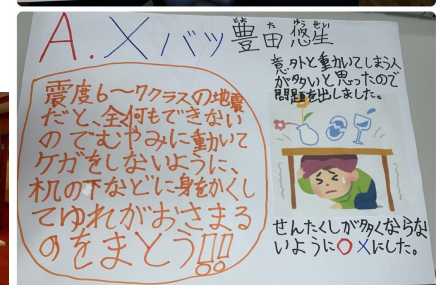
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンとUS AIDの協力で、バス研修や認定キーホルダー贈呈、防災食などの費用協力も得られ、**子どもたちの達成感や研修内容の充実が図れている。**

POINT!

保護者の満足度100%。受講によって、子どもの成長を感じ、周りの人にも勧めたい講座として大好評。



アメリカ大使館 ヒース氏 視察



まなぼうさい



地域団体（川辺地区まちづくり推進協議会・放課後子ども教室）と**協働**開催。



楽しく知って、**自分の考え**を話したり、聞いたりすることで学びを深める。



近所の人から学ぶことで、**年代を超えたつながり作り**。



中学生から○×クイズを出題。**年齢が近いスタッフ**が関わることで、**子どもたちの興味**が高まった。



保護者からも「防災食がおいしいことを子どもから教えてもらった」と、**家庭で防災についての会話**のきっかけになった。



手作りの教材で教える側も教わる側も防災の**備えを自分事**に。



川辺小学校3,5年生に向けて災害後や防災の取組について講演



POINT!

被災経験のある子どもたちに配慮したうえで、西日本豪雨災害からの取組や教訓を伝える。



POINT!

地域の活動を知ったうえで自分たちに何ができるのかを考える学びの一端。



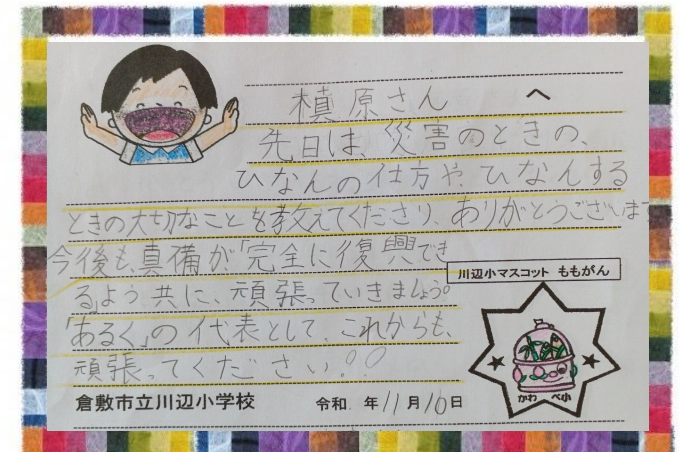
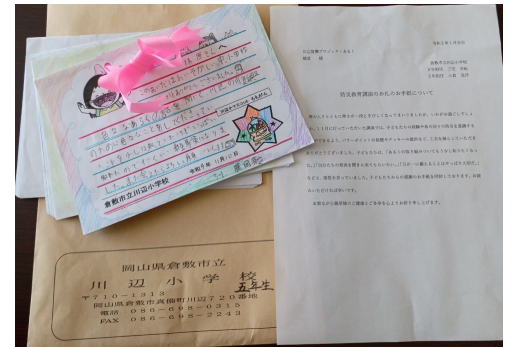
POINT!

聞いた話をもとに、取組んだことをまとめて発表する発表会に招待してくれたり、お礼の手紙をいただいたり、川辺みらいミーティングで発表の動画を視聴したりなど、**地域と小学校の緩やかなつながりができつつある。**



POINT!

無理のないかたちで被災を振り返り、自分たちに何ができるのかを考えることで、**心の復興**につながる。



4. 防災おやこ手帳の発行・配布



真備町・川辺のパパ、ママの被災当時のエピソードや**経験から学んだこと**を盛り込んだ水害に特化した防災ブック。



忙しいパパ・ママや防災初心者にも**わかりやすく**するため、できる限り**優しい言葉**で**文字数を少なく**した。

↓
高齢者・障がい者にもわかりやすい。社内研修などでも気軽に使いやすい。など、幅広い方から支持。



メディアにも取り上げられ、全国から問い合わせがあり、初版からの**配布累計46,000冊**を超えた。



私たちと同じ後悔や失敗をしないこと。
大切な人を災害から守ることができるように、願いを込めて。



5. 大人も楽しく体験しながら学ぶ(一部のみ紹介)

災害時の情報共有でつながる

LINEを使ってみよう

大人も子どももやってみよう！

防災体験

避難所開設ってどんな感じ？をイメージ共有

避難所運営ゲーム HUG

LINEをつかってみよう



避難時、災害後の情報共有のとき、大変便利だったLINEに慣れておく。



参加者同士で教え合うことでつながりを広めたり、深めたりする。



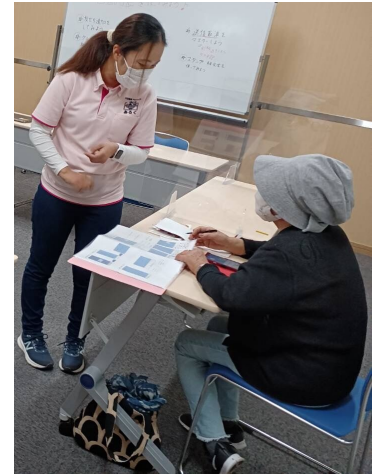
被災後、ガラケーからスマートフォンに変更された方のフォロー。



災害後にできた、LINEグループ「川辺地区みんなの会」に参加し、地域の情報をえられるようにする。



内容は、基本的なこと。友達追加、メッセージの送信、スタンプや絵文字の使い方など。



子どもも大人も防災体験会



POINT!

メスティンを使った、災害時にも温かくて美味しい調理の体験。給電車での電気を利用して、持ち寄り炊き出し。



POINT!

参加者が我が家の持ち出し品を紹介。新たに備えたいもの、真似したいことを共有して、備えのヒントに。



POINT!

国交省、倉敷市から情報共有、NGOピースウィンズさんからは、非常用トイレの展示、岡山トヨタ自動車さんの給電車の展示など、さまざまな主体と協働し多角的な防災研修。香川大学磯打准教授のアドバイスもいただいている。



避難所運営ゲーム HUG



災害支援団体のスタッフからの話で、地震災害についてリアルにイメージすることができた。



大きな災害では地域の力で避難所を開設する必要があることを、みんなで意識する機会になった。



チームによって、何を重要視するのかが違っていて、今後、川辺防災を進める上で、考えを集約していくことの大切さも知った。



障がい者・病人・親とはぐれた子ども・外国人・ペット同伴など、災害弱者になり得る人の対応については、とても考えさせられた。



ゲームでありながらも、実際の災害発生時の難しさを共有することができた。避難所運営に対しての理解者を増やしていくためにも、継続して行いたい。



《防災カフェ》
地震が発生した場合、川辺小学校が避難所として開設されます。避難所運営のことみなで考えてみませんか？
令和4年度岡山県備中県民局提案型協働事業

開催日：11月19日（土）
場所：川辺分館
受付：9：30～
時間：10：00～12：00
対象：避難所運営関心がある方
定員：40名
参加費：無料

《講師》
橋本 竹子氏

《講師紹介》
特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン
国内事業部次長
約25年、国際協力NGOで国内外の災害被災者支援に携わる。特に東日本大震災以降は主に国内での災害被災者支援に注力してきた。2児の子育てを終え、現在は認知症の義母の介護をしながら、災害対応、防災減災事業に従事している。

HUG
避難所運営ゲーム網上訓練
体験会 開催！
お問い合わせ
080-5752-0111（あるく）
メール：
aruku.2018.10.18@gmail.com
主催：川辺復興プロジェクトあるく
協力：川辺地区まちづくり推進協議会

（申込書）11/19 防災カフェ 避難所運営ゲーム

お名前	
所属、お住まい 町内会など	
連絡先	

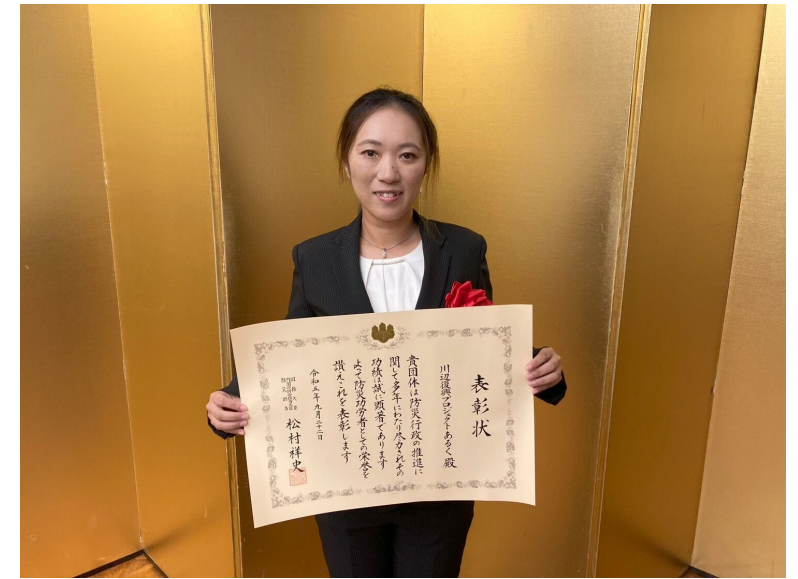
申込書は川辺分館入り口の「川辺地区まちづくり推進協議会」の木箱に入れてください。



令和5年防災功労者防災担当大臣表彰

川辺復興プロジェクトあるくは、30年豪雨の災害直後から、被災地域において活動を開始し、被災者の生活支援や交流拠点の運営等を行うとともに、多様な主体と連携の上、研修会やイベントの開催、啓発資材の作成など住民ニーズを掘り下げた防災・減災の取り組みを行っている。

“マイ避難先”“避難スイッチ”“持っていくもの”などの具体的な避難のヒントを盛り込んだ「防災やこ手帳」は、全国の希望者に無料配布、活用されている。また、手怪な安否確認ツールとして、黄色いタスキを住民へ全戸配布し、迅速な安否確認や救助を目指す「黄色いタスキ大作戦」の発案などは、先駆的かつ創意工夫に満ちた取組である。



その他の受賞歴

2020年 地域再生大賞 優秀賞 受賞

2021年 岡山県備中県民局 地域づくり推進賞(県民局長賞)受賞

